

## 「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい」

### マタイ 11 : 25—30

I イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました」：25。1. 「天地の主であられる父よ」：父なる神が、すべての被造物（天と地のすべて、そして私達の命、進路、人生のすべて）に対して絶対的な主権、支配権を持っておられる事を示す。この偉大な方にすべてを委ね、且つ、正直に祈りたい。祈り続ける時、少しずつ、神の心に合わせられて行く（チュウニング）。2. 「あなたをほめたたえます」：「ほめたたえます」は、「完全に同意する」の意。神への賛美は、神のご計画と御業に100%同意することから始まる。歌集を用いて、神を賛美する時、その歌詞を大切にし、理解し、同意し（アーメンの心）、心から神をほめたたえる賛美を神は喜ばれる。3. 「これらのこと（イエス様の宣教によって明らかにされた真理、天の御国の奥義）、賢い者や知恵のある者（自分が知恵があると思いがり、神から離れた知者）には隠して（知らせず）、幼子たち（文字通りではなく、自らの無知と限界を認め、心を低くして素直に神の教えを受け入れる人の事）に現わしてくださいました（神の真理を心で理解、分かるようにされた）」：25。私達も、神の真理、福音、聖書の御言葉を、自分の頭の知恵では、一生かけても理解は決してできなかつた。自分の知恵で理解できる人は世界中に一人もいない。神が、昔も今も人々（私達も含む）の心の目を開いて、神の真理が理解できるようにされる。これは、奇蹟的な恵み！心から感謝したい！4. 「そうです。父よ。これがみこころにかなったことでした」：26。「みこころ」の語源は、「喜んで考える」。神はすべてのことを、私達が、神の真理、福音、御言葉を理解できる恵みの御業を喜んでなさっておられる。感謝。

II 「すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、父のほかには、子を知る者がなく、子と、子が父を知らせようと心に定めた人のほかは、だれも父を知る者がありません」：27。ここでは、イエス御自身が、すべてのものを父から受けていると宣言され、イエスが意思されない限り、私達人間には真の信仰が生じない事が説かれる。つまり、イエスは、御父と同等の主権をお持ちという事である。私達に真の信仰を与えられた御父と御子イエスに心から感謝したい。私達すべての人間は、自分の力では決して決して主・福音を信じる事は出来ないのだから。

III 「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」：28。1. 主は、御自身のお選びになった人々に御父を示される。と同時に、主は、すべての人々にご自身のもとに来るように招かれている。「すべて」の人へ→差別のない素晴らしい愛の招き！この招きに応答する人のみが、主が与えられる真の休み、霊的な憩いに入る事ができる。2. 「疲れた人」の字義訳は、「苦勞している人」。原語は、現在形なので、「現に今、苦勞の真っ只中で奮闘している人」、私達への招き。初めて主を信じる時の一回きりではない招き。絶えず、主の所に招かれている。感謝。「重荷を負っている人」の字義訳は、「重荷を負わされている人」。原語は、現在完了受動形なので、「自分の意志とは別に、かつて外から負わされた重荷の中で、現在も葛藤しながらもがき続けている状態」。何と私達の人生の重荷を見事に表している事か！主が、いかに私達の重荷を深く理解して、愛をも

って招き続けておられるかが分かる。感謝します。私達のあらゆる重荷（病、経済、人間関係の悩み、将来の事、家族のトラブル、仕事の悩み、色々な思い煩い）を主のもとに行き、降ろすことができる。

3. 「わたしのところに来なさい」とは=①主を信じ信頼し、主のもとに人生の重荷を下ろす。疲れ、重荷を正直に祈りを通して打ち明ける。②キリストのからだであり、主が臨在されている教会に行く。特に礼拝に臨在される主のもとに重荷を降ろし、主の御言葉に耳を傾け、御言葉から示唆、憩い、新しい力を受ける。③「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいる」（マタイ18：20）と言われたように、主を間において、主と信頼できる人に心の重荷を打ち明け、その人に依存するのではなく、その中におられる主に共に祈り主の御手に重荷を降ろす。④毎朝（もしくは、一日のどこかで）、主の前に静まり、御言葉を読み味わい、祈る（ディボーションは幸いな時）。⑤1回きりではなく、疲れ、重荷がある度に、いつでも主のもとに行く。主は、私達の為に、いつも時間を空けて待っておられる。「わたしがあなたがたを休ませてあげます（解放します、全き安息を与えます）」：28。

4. 「わたしは心優しく（弱々しいのではなく、芯の強さのある優しさ、柔和さ）、へりくだっている（神であられるのに、人となり、人々に仕える謙遜なお方）から、あなたがたもわたしのくびき（愛と恵みに基づく祝福のくびき、憩いのくびき）を負って」：29。主は私達が倒れそうな時、私達を丸ごと担い、運び、背負って救い出して下さる素晴らしいお方。最中は、分からなくても、人生を振り返ると気づかせられる。「足跡の賛美」の通り→「胎内にいるときからになわれており、生まれる前から運ばれた者よ。…あなたがたがしがらになっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。なお、わたしは運ぼう。わたしは背負って救い出そう」（イザヤ46：3, 4）。

5. 「わたしから学びなさい（主の弟子になりなさいの意。主の御言葉が知識だけではなく生活化する）。そうすればたましいに安らぎが来ます（御聖霊により主の御言葉に従う時、この世にはない本当の安らぎが来る）。「わたしのくびき（主のもとに服して歩む事）は負いやすく（心地よい、親切、主が共に負って下さる）、わたしの荷は軽い（主が背負って下さるので）からです」：30。